

主題	チームで取り組む個別口腔ケア
副題	日常的なケアの大切さ～口腔ケアのポイントをおさえていますか？～
口腔ケア	質の向上

研究期間	14 ヶ月	事業所	特別養護老人ホーム 第二清風園
発表者：高橋幸恵、相澤絵美里			アドバイザー：北川達三
共同研究者：			

電 話	042-736-6906	メール	Kitagawa.t@san-ikukai.or.jp
FAX	042-736-6903	URL	http://www.san-ikukai.or.jp/m

今回発表の事業所やサービスの紹介	開設は平成9年4月、町田市薬師台にある複合型施設。特養100床、ショート30床、デイサービス50名定員、認知症デイ12名定員、その他に居宅介護支援事業所、高齢者支援センター（包括）を併設する。また、2キロ離れたところに、同一法人の施設があり、特養の他に、診療所、訪問看護、訪問介護の事業を有する。地域の方が、在宅から施設まで安心して過ごせるよう取り組んでいる。
------------------	--

《1. 研究前の状況と課題》

2007年より、歯科衛生士の導入にあたり、口腔ケアチームを設置し、口腔内の清潔と、口腔機能維持の為に活動してきた。しかし、介護員への個別口腔ケア方法の周知が十分でなく、個別口腔ケア方法が分からない為、形ばかりのケアとなり、年々口腔ケアに対する意識が薄れて行き、実際には個別ケアと言えるものが出来ていなかった。また、どのように職員の意識を向上させればよいのか分からず、チームとしての連携が取れていなかった。介護課では毎食後の口腔ケアや必要な方への食前マッサージを行い、歯科衛生士による定期的な口腔機能向上訓練、水飲みテスト、口腔ケアを継続して行っていた。日常的なケアこそ、ケアの質の向上が求められ、QOLの向上に繋げる事が大切なのではないかと考え、もう一度、チームとして連携し、個別口腔ケアを行っていく必要があった。

《2. 研究の目標と期待する成果・目的》

再度、職員への口腔ケアの大切さを理解してもらい、利用者の口腔内状況の把握をすると共に、介護課、看護課、栄養課、リハビリ課だけではなく、歯科衛生士、歯科医師という専門職種を含めたチームで連携し、個別口腔ケアを行う事を目的とした。その成果として、チームの力で、口腔内清潔や口腔機能維持、向上と共に、職員のケアの意識を高める事ができる。

2012年より嚥下内視鏡を導入し、チームとして連携を取る事で、胃瘻の方の「食べたい」という希望を叶える事ができる。また、麻痺のある方の口腔内をきれいに保ち、誤嚥性肺炎を防ぎ、「健康に過ごしたい」という希望を叶える事ができる。

さらに、個々の食事形態や介助方法・姿勢の見直しをする事で、誤嚥のリスクを軽減させる事ができる。

《3. 具体的な取り組みの内容》

1. 連携を図る為、口腔ケアチーム内での役割を明確にした。
2. 介護員の口腔ケアに対する意識を高める為、勉強会を開いた。
3. 食前の口腔体操、口腔マッサージ、食事の際のポジショニングの検討、見直し。
4. 口腔ケアチーム以外の介護員も、歯科衛生士より個別口腔ケアの指導を直接受ける場を設けた。
5. 日々の口腔ケアと食事の様子から変化が見られた場合、随時口腔ケアチームへ報告し、対応方法の検討をした。
6. 嚥下内視鏡検査の導入を行った。

＜嚥下内視鏡検査での取り組み＞

- ① 口腔ケアチーム内で嚥下内視鏡検査対象者をセレクト
- ② ご家族に同意を得た上で、歯科医師に報告。
- ③ 摂食機能評価依頼書、事前評価シートの記入
- ④ 嚥下内視鏡検査を行う。検査時は口腔ケアチーム全員が立ち会う。
- ⑤ 歯科医師による嚥下評価。今後の対応の指導。
- ⑥ モニタリング→歯科医師による嚥下評価（1ヶ月毎）→評価結果を介護員へ周知。
※この流れを繰り返し行う。
- ⑦ 評価に応じた対応方法を随時検討し実施。

《4. 取り組みの結果と考察》

介護員が口腔ケアのポイントをおさえた口腔内の状況を把握できておらず、直接、歯科衛生士に指導受ける事により、根拠を理解した上での個別口腔ケアを行う事ができた。個別口腔ケアを行う事で、口腔ケアの大切さを理解し、職員の口腔ケアに対する意識が高まった。その為、口腔内状況の変化に早く気付く事が出来、口腔機能を維持する事ができた。また、職員の意識が高まった事で、チームとして、更なる目標を持って取り組む事ができた。

《5. まとめ、結論》

個別ケアを行うにはひとつひとつのケアの根拠を職員が正確に理解していなければできない。その為には、歯科衛生士や歯科医師などの専門職を含めたチームを作って、個別口腔ケアに取り組む事が重要である。

《6. 倫理的配慮に関する事項》

なお、本研究発表を行うにあたり、御本人（ご家族）に口頭にて確認をし、本研究発表以外では使用しない事、それにより不利益を被ることはないことを説明し、回答を持って同意を得たこととした。

《7. 参考文献》

《8. 提案と発信》

口腔ケアは日常的なケアの為、実際の現場では意識が薄れやすく、形ばかりのケアとなりがちである。個別口腔ケアの重要性を理解した上で、専門職種を含めたチームとして、一つの目標に向かって取り組む事でケアの質とQOLの向上に繋がるのではないかと考えます。

【メモ欄】